

古典の日絵巻 [第四卷:琳派400年]



『牛追い図』俵屋宗達作(醍醐寺蔵)

第8号: 平成26年12月1日 俵屋宗達 —— 1

宗達については謎が多い。例えば、いつ何処で生まれたのか、そして没したのはいつか。さらに墓所の所在も不明という基本的な事柄が判らない、これが現在のところである。宗達の先生が誰かも不明であり、当時有名であった狩野派の絵師に付いて学んだ形跡もない。もし、狩野派の絵師に師事していれば、同時代の狩野山雪が記録した『本朝画史』に宗達の名は当然記録されねばならない。しかし、彼の記事がないことは、宗達は狩野派から絵師とは認められていなかったことになる。宗達は独学で道を切り開いたのであり、江戸幕府のお抱え絵師の集団から完全に無視されていたことは確かである。

無視されたことは、逆に京の町衆の心をつかんだ絵師であったことを示している。仮名草子『竹斎』に「扇は都俵屋」という絵屋の記録があり、宗達の扇絵が数多く遺されていることなどから、扇を商う店の主人であったのではないかと推測できる。つまりレディメード絵画を商品として取扱う商店、丁稚小僧や手代、番頭を抱えた工房の旦那さんであり、町衆の一人でもあったと考えられる。

俵屋では、下働きの丁稚小僧の頃から絵を描く修行を積んで、画技に上達した手代・番頭が独立する時に、宗達も使う「伊年」の印章を主人・宗達から手渡されたのではないか、「伊年」印は俵屋の商標であり、工房印であったと考えられる。

